一般財団法人
地域活性化センター
Japan Center for Regional Development

プレスリリース

２０２２年１１月２１日

地域プロモーションアワード2022 決定！
大賞は佐賀県・長崎県【パンフレット】 鹿児島県枕崎市【動画】

主催：一般財団法人地域活性化センター　後援：一般社団法人共同通信社、株式会社時事通信社

一般財団法人地域活性化センターでは、地域の魅力を国内外に発信する広報 PR 活動の一助とするために、地域プロモーション事業の推進を行っています。その一環として、優れたパンフレットや動画を表彰する「地域プロモーションアワード」を実施しています。

この度、「地域プロモーションアワード 2022」の各賞が決定しましたので、下記のとおり発表いたします。

なお、大賞受賞団体の表彰式を 2022 年 1 月 26 日（木）に開催いたします。

記

1. 名称　地域プロモーションアワード 2022
   ふるさとパンフレット大賞（第１０回）、ふるさと動画大賞（第４回）
2. 受賞作品

ふるさとパンフレット大賞（第１０回）

応募数：１０８点

受賞作品数：７点

賞（各１点）	受賞自治体・作品名
大賞	佐賀県・長崎県 「SとN　6号」
優秀賞	三重県いなべ市 「いなべ、暮らしを旅する。2022」
南伸坊賞	松本広域連合 「da・da」
楓千里賞	大阪府東大阪市 「トライくんの東大阪だいぼうけん」
パックン賞	秋田県にかほ市 「漁師図鑑」
マックン賞	埼玉県熊谷市 「くまがや雪くまガイド」
地域活性化センター賞	新潟県南魚沼市 「COLOR of Minamiuonuma」

大賞　　佐賀県・長崎県　ＳとＮ　６号

ふるさと動画大賞（第４回）

応募数：１３６点

受賞作品数：８点

賞（各１点）	受賞自治体（上段）・作品名（下段）
大賞	鹿児島県枕崎市 枕（MAKURA）JAZZ～総集篇～
優秀賞	神奈川県小田原市 おだわらでみつけたもの
箭内道彦賞	広島県三原市 三原JKの浪漫【高校生と作る 三原PR動画制作プロジェクト】
秋吉久美子賞	熊本県熊本市 熊本市政令指定都市移行10周年記念スペシャルムービー フルバージョン
木川剛志賞	高知県佐川町 究極のブルー
松原亨賞	新潟県南魚沼市 南魚沼産コシヒカリ KNOW THE FUTURE × MUSIC（2022）
谷中修吾賞	群馬県 The Seasons of Japan in Gunma Prefecture
地域活性化センター賞	高知県四万十町 ヲタ芸で地域おこし？四万十町観光PR動画

大賞　　鹿児島県枕崎市

枕（MAKURA）JAZZ～総集編～

※実施要領は当センターHP に掲載しています。
https://www.jcrd.jp/publications/pamphlet/
※掲載画像については、提供できる物もありますので、ご希望の方はお問合せください。

お問い合わせ先
一般財団法人　地域活性化センター　情報・広報プロモーション課
パンフレット大賞：塚田　動画大賞：板谷
TEL：03-5202-6137　E-mail：kouhou@jcrd.jp

ふるさとパンフレット大賞（第１０回）審査結果

開催趣旨

地域活性化センターでは、ふるさとの魅力を発信するプロモーションを支援するため、地域の魅力を独自のセンスで発信している優れたパンフレットを表彰し、全国に紹介する「ふるさとパンフレット大賞」を平成２５年度から開催している。

パンフレットによる地域情報発信を引き続き支援するため、「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさとパンフレット大賞」を開催し、全国各地の趣向を凝らしたパンフレットを募集、表彰する。

審査委員

審査委員長	南　伸坊　氏	（イラストレーター）
審査委員	楓　千里　氏	（國學院大學観光まちづくり学部　教授）
	パックン　氏	（お笑いコンビ　パックンマックン）
	マックン　氏	（お笑いコンビ　パックンマックン）
	川住　昌光	（一般財団法人地域活性化センター　常務理事）

応募作品数　１０８点

受賞作品数　７点

賞（各１点）	受賞自治体・作品名
大賞	佐賀県・長崎県 「SとN　6号」
優秀賞	三重県いなべ市 「いなべ、暮らしを旅する。2022」
南伸坊賞	松本広域連合 「da・da」
楓千里賞	大阪府東大阪市 「トライくんの東大阪だいぼうけん」
パックン賞	秋田県にかほ市 「漁師図鑑」
マックン賞	埼玉県熊谷市 「くまがや雪くまガイド」
地域活性化センター賞	新潟県南魚沼市 「COLOR of Minamiuonuma」

ふるさとパンフレット大賞（第10回） 入賞作品

《大賞》
佐賀県・長崎県
「SとN6号」

《優秀賞》
三重県いなべ市
いなべ、暮らしを旅する。2022

《南伸坊賞》
松本広域連合
da・da

《楓千里賞》
大阪府東大阪市
トライくんの東大阪だいぼうけん

《パックン賞》
秋田県にかほ市
漁師図鑑

《マックン賞》
埼玉県熊谷市
くまがや雪くまガイド

《地域活性化センター賞》
新潟県南魚沼市
COLOR of minamiuonuma

大賞

佐賀県・長崎県

SとN　6号

作品概要

2022年の西九州新幹線の開業に向け、地域の魅力をさらに磨き上げていこうと、佐賀、長崎両県で協力し、2017年3月に創刊。今年、６号を発行。デジタルブックも公開しているが、紙媒体、色あいにこだわって制作しています。

各号でテーマを設定し、グルメや風景だけでなく、人にもフォーカスを当てるなど、隣り合う地域で暮らす人々の日常も取り上げています。外部の視点で佐賀と長崎の日常の中にある魅力を発信することで、県外へのPRだけでなく、地域の人にとって、それまでは当たり前と思っていた地域の魅力の再発見につながっています。

ＷＥＢパンフレットはこちら。
http://www.saga-ebooks.jp/?p=15417

審査コメント（講評より抜粋）

・私が「SとN」さがとながさき（鉄道でつながる）を推したのは、写真のレイアウトの巧みさに対してだった。もし他の審査員の反対があるようなら、個人賞に推すつもりだった。すべてにわたって安定感がありながら、新しいデザインのアイデアがあった。フタをあけたら満票だった。いいものは伝わるのだ。おそらく制作費は潤沢であったと思う。そこが私の危惧だったのだが、（あまり予算のかけられない自治体のチャンスをうばうといことでマイナスになることがある）予算がないところは、大賞作品からその技術を学習すれば良いのだし、そもそも予算を少しでも多く取る努力をすれば良い話です。

・武雄温泉と長崎を結ぶ「西九州新幹線」の開業は2022年9月23日。そこから遡ること5年半前に創刊された「SとN」は今回の大賞受賞号で6号目となります。毎年1号ずつ、佐賀と長崎の風土、歴史、文化、そこで暮らす人々を丁寧に取材し、大胆な写真使いやデザインで編集した雑誌そのものです。目次には鉄道風景、神社、木工所、商店街、飲食店や展望台等々、一見バラバラな取材先が並びますが、1冊の中で見事なハーモニーで収まっており、敏腕編集者の仕事に感服です。

・パンフレット全体はここ数年、移住と観光の二極化になってきていて、どちらも色々な角度から「我が町」の魅力を上手く表現して審査が難しくなってきています。そんな中、長崎と佐賀の両県の魅力を合わせた一冊が今回は見せ方と内容のインパクトが強く印象に残りました。大賞おめでとうございます。でも、本当にみんな素晴らしいパンフレットで審査に困ります。

受賞団体コメント（佐賀県・長崎県）

この度は、このような栄誉ある賞をいただくことができ、とても嬉しく思います。

このＳとＮは、佐賀県と長崎県の２県で協力、制作してきた冊子で、通常の観光パンフレットで紹介するような観光スポットではなく、その地域で暮らす人々や風景などにスポットを当て、日常の中にある魅力を取り上げています。

その日常の中にある魅力は、その地域で暮らしていると身近すぎて気付きにくいものですが、ＳとＮを読んでその魅力に気付けたという声を県外だけでなく県内からも多くいただいており、知らなかった地域の魅力に気付くきっかけとなっています。

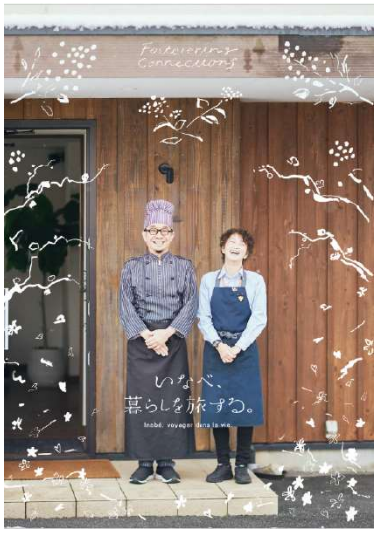
そんな佐賀、長崎の日常の中にある魅力をこのＳとＮを手に、佐賀、長崎の地に訪れていただき、感じてもらえればと思います。

このような賞をいただけるのもＳとＮの制作にご協力、携わっていただいた多くの方々のお陰だと思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。

優秀賞

三重県いなべ市

いなべ暮らしを旅する。２０２２



作品概要

この冊子では、世界でここにしかない、神々の気まぐれな采配で生まれたいなべの日常を、アーティスティックな旅のように見せようと工夫を凝らしました。

アートだから、美術系の冊子のように見せたいし、手触りの感覚がするものに仕上げたい。制作段階では試行錯誤を繰り返しました。

また、折しもいなべ市ではヨーロッパをターゲットにしたインバウンドへと大きく舵を切ろうとするタイミングであり、それに合わせて本冊子の表現手法も従来にない、外国人を意識したものを目指しています。

ＷＥＢパンフレットはこちら。
https://www.city.inabe.mie.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/011/973/kurasi2022.pdf

審査コメント（講評より抜粋）

・誠実な作りに評価があつまって、写真だけでなく、似顔絵のイラストレーションをいれたのも工夫だった。ふるさとパンフレット大賞も第10回をむかえ、年ごとにデザインの技術も、企画の技術も向上していると思います。さらにレベルを上げるのは、デザインにおいても企画においても「果断であること」でしょう。

・イタリアンシェフとマダムの笑顔が迎えてくれる優秀賞の「いなべ、暮らしを旅する2022」。誌面からまちの新しい息吹のほとばしりが感じられます。いなべに暮らすアートな20人をモノクロイラストで紹介しているのも上手い構成で、この人に会いに行きたい気持ちがわいてきました。英語版、フランス語版も用意されているので、海外からのお客様にも「いなべ」のゆったりとした空気感が伝わるはずです。

・行ったことも通ったこともない、そんないなべ市に「ぜひ行ってみたい」と思わせる不思議な力をもった作品。奇をてらったわけではなく、写真や、そこに映し出された風景も何の変哲もないようなごく自然なものでありながら、読み進めるうちにどんどん引き込まれていく。色使いもあえて抑え気味にしながら、そこにある等身大の素朴な生活、暮らし、営みをしっとりじんわり伝えてくれる。

受賞団体コメント

鈴鹿山脈とその谷筋を流れる清流のせせらぎ、いたるところで出会える自分だけの景色、名もなきスポット、そこに住まい、生業を続ける人たち……。

このパンフレットでは、世界でここにしかない、神々の気まぐれな采配で生まれた三重県いなべの日常を、アーティスティックな旅のように見せようと表現しました。

また、折しもいなべ市ではヨーロッパをターゲットにしたインバウンドへと大きく舵を切ろうとするタイミングであり、それに合わせて表現手法も従来にない、外国人を意識したものを目指しています。

本誌が多様な人たちに受け止められ、いなべ市を訪れるきっかけになれば嬉しく思います。

この度は、いなべ市を鼓舞し、ワクワクする未来を予感させてくださる素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございました。

ふるさとパンフレット大賞（第１０回）審査委員賞

南伸坊賞

松本広域連合

da・da

作品概要

行政による地域プロモーションの領域を広げる挑戦としたい。地域の記号化されたイメージを超えるイメージを生み出したい。これが冊子のコンセプトです。
この冊子には、宣伝文句も「インスタ映え」もなく、地域の紹介文さえも載せていません。関係者からは、「観光パンフレットではない」「これでどうやって誘客するのか」という意見もありました。
「風情ある街並み」「豊かな自然」「人情味のあるふれあい」。記号化された「地方」のイメージは確かにわかりやすいし、私たち発信者にとっても扱いやすいものです。
しかし、お客様の感性と想像力をもっと信じてもよいのではないか。信じることで、単なる情報発信に留まらないものが生まれる可能性があるのではないか。私たちはそのように考え冊子を制作しました。

WEBパンフレットはこちら。
https://matsu-toco.com/dada/

南 伸坊 審査委員長

審査コメント

「街のパンフレットを作る」というプロジェクトで、松本広域連合は一人のフリーカメラマンを起用した。どういういきさつでそうなったかは知らず、このカメラマンに写真集をつくってもらうという「編集」を松本広域連合はして、カメラマンの渡部さとる氏は、地元の17歳を撮って、撮りながらインタビューをした。そして、美しい一冊の写真集が、松本のパンフレットになったのだった。果断の企画だったと思う。そしてそれは成功した。

受賞団体コメント（松本広域連合）

松本広域連合は、長野県中部の８自治体からなる特別地方公共団体です。冊子のタイトルは、語尾に「だ」と付ける当地域の方言からきています。地域の一体感、あるいはエネルギーのようなものをどうお伝えするかを考え、生まれたのがこの『da・da（ダ・ダ）』です。

８自治体が共同で事業に取り組むにあたり、私たちは「ゲストと地域の『はじめまして』をつなぐ」をコンセプトとして共有し、人の心を動かす情報発信をめざして、表現のプロをパートナーとして制作を進めました。写真家の渡部さとる氏は、商業カメラマンと写真作家というキャリアの両面でこのプロジェクトを支え、完成に導いてくれました。

若者のポートレートに生活風景を組み合わせ、ほとんど情報らしい情報をのせない内容には賛否両論がありました。そうした中、このような賞をいただけたことは大変有難く、光栄に存じます。ありがとうございました。

楓千里賞

大阪府東大阪市

大阪府東大阪市

作品概要

お子さんと過ごすことのできるスポットを絵本風に紹介するリーフレットを作 成しました。東大阪市には府内各地からも親子で訪れていただいている花園中 央公園やドリーム21など楽しいスポットがたくさんあります。今年は東大阪 市マスコットキャラクタートライくんがデビュー30周年ということもあり、ト ライくんを活用しました。絵本を見て、『トライくんが楽しんだ東大阪に行き たいな』と思っていただけたら嬉しいです。

WＥＢパンフレットはこちら。
https://www.city.higashiosaka.lg.jp/0000030854.html

楓 千里 審査委員

審査コメント

「トライくんの東大阪だいぼうけん」は、キャラクターのトライくんが、まちの中に隠れたラグビーボールを探しながら、まちを紹介する絵本仕立てで、どの世代の方にも親しみやすく、手に取りやすい構成となっています。私は長く観光関連の仕事に従事していますので、東大阪といえば、日本を代表する「モノづくりのまち」として、積極的に工場見学を受け入れている「産業観光」の先進地のイメージがあります。このパンフレットから、ラグビーの聖地「花園ラグビー場」を擁する東大阪はラグビーファンのまちでもあり、その熱いパッションが「モノづくりのまち」を支えているとの発見があり、東大阪への興味が一段と高まりました。もちろん朝ドラも見逃せません。

受賞団体コメント

この度は、このような大変素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。
東大阪市は、「ラグビーのまち」「モノづくりのまち」で知られ、現在、ＮＨＫの連続テレビ小説「舞いあがれ！」の舞台のひとつとして取り上げていただいております。市内には関西各地からも親子で訪れていただいている「花園中央公園」や児童文化スポーツセンター「ドリーム21」など楽しいスポットがたくさんあります。この絵本の主役である市マスコットキャラクタートライくんは皆様に愛され、おかげさまで今年デビュー30周年を迎えることができました。そのような年に、評価をいただけたことを大変光栄に思います。絵本では可愛らしいイラストを交えながら、トライくんが市のスポットを紹介しており、繰り返し読んでも楽しんでいただけるような工夫をしております。親子で一緒に絵本を読みながら、『トライくんが楽しんだ東大阪に行きたいな』と思っていただけたら嬉しいです。

ふるさとパンフレット大賞（第１０回）審査委員賞

パックン賞

秋田県にかほ市

漁師図鑑

作品概要

コンテンツ自体は、にかほ市の地域としての魅力発信に加えて、市の伝統産業のひとつである漁業の振興に繋げるべく「後継者不足の課題解決」「海産物の認知・販路拡大」を目的に制作しました。

コアターゲットを地域内の小学生以上の子供と、子育てをしている親世代（20代後半～50代前半）に設定し、サブターゲットを地域内外の一次産業や関連職業に興味関心がある人、産直志向を持っている人、地方での観光が好きな人などの属性を持つ人に設定しました。

コンテンツの目的である「後継者不足の課題解決」については、子供とその子供を育てる親世代の大人に向けた面白さ重視のコンテンツにすることで、職業としての認知や将来の選択肢になるよう、まずは「知る」という第1ステップを作ることを狙いました。

「海産物の認知・販路拡大」については、産直サービスが普及し、信頼性、安全性を重視した産直志向をもった消費者が増えている傾向から、生産者の顔や人柄が分かる内容にすることで、信頼性や安全性の面で間接的に販路拡大に寄与することを狙い制作しました。

パックン 審査委員

審査コメント

各地のパンフレットの質が年々あがっている。ゆえに、年々審査も難しなっている。しかし、同時にパンフレットを熟読することがますます面白くなってきているのも間違いない。最近は観光のほかに「移住」を促す目的のものが増え、食や名所よりも、住民の笑顔、生き方を紹介する割合も増した。今の生活にとりわけ不満はない僕でも、あっ、この人に会いたい！このエリアに住みたい！と思わせる力を持つものさえある。

パックン賞に選んだのはまさに、地元の自慢の漁師を図鑑にまとめた面白パンフ。魚のように、みんなの幸せそうな表情に僕のハートも釣られた。

受賞団体コメント

この度は栄えある賞をいただきありがとうございます。

漁師図鑑は、漁師というお仕事、また、にかほ市が漁師町であるという認知の拡大を目的に、にかほ市の漁業を盛り上げるために制作しました。クスッと笑える情報や、新しい知識として楽しんでもらえる工夫を取り入れながら、漁業、漁師、お魚の魅力をぎゅっと凝縮した図鑑に仕上げました。

漁師というお仕事は、天候や荒波に左右される「命懸け」の大変なお仕事です。日々私たちに「食」を届けてくれるかっこ良くて面白い漁師さんたちが、にかほ市にはたくさんいます。そんな素敵な漁師さんたちの素顔をぜひ覗いてみてください。

今回、多くの漁業関係者や地域の方々にご協力いただき、この作品を作り上げることができました。今までにない一風変わったコンテンツとなりましたが、地域内、全国からたくさんの感想やお声をいただきました。これを受け入れてくれ、楽しんでいただいた皆様に感謝しております。

マックン賞

埼玉県熊谷市

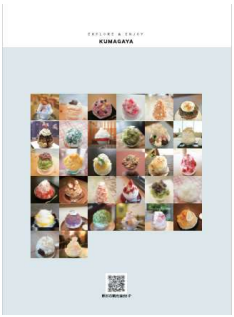
くまがや雪くまガイド

作品概要

複数の雪くまを食べ歩いていただきたく、持ち歩きしやすいようA5サイズの冊子で作成しました。

1ページにつき1店舗紹介形式で、商品写真を大きく掲載して各店舗こだわりの商品を前面に押し出すようなデザインとした。

写真の統一感を出したかったため、例年は店舗から商品写真を提供していただいていたが、今回はプロのカメラマンに撮影を依頼しました。



WＥＢパンフレットはこちら。
https://www.oideyo-kumagaya.com/cate-info/13140/

マックン 審査委員

審査コメント

毎年夏になると「日本の最高気温」の記録塗り替えの常連となっている熊谷ならではの、かき氷推しパンフレット。写真のインパクトとパンフレットを持って食べ歩き、店探しをしたくなる一冊。ということでマックン賞に選ばせて頂きました。パンフレット全体はここ数年、移住と観光の二極化になってきていて、どちらも色々な角度から「我が町」の魅力を上手く表現して審査が難しくなってきています。でも、本当にみんな素晴らしいパンフレットで審査に困ります。

受賞団体コメント

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

２０１８年７月に国内の観測史上最高気温４１.１度を記録した熊谷市。昔から美味しいといわれている熊谷市の「水」を活かし、「夏の暑さ」を逆手にとって、ブランド化したかき氷が“雪くま”です。熊谷のおいしい水から作った貫目氷を雪のようにふわふわに削り、各店のオリジナルシロップを使用しています。

「くまがや雪くまガイド」は、そんな熊谷のご当地かき氷“雪くま”の魅力を紹介する冊子です。“雪くま”で暑い熊谷の夏を涼しく美味しく過ごせますようにという想いを込めて熊谷市観光協会と共同で制作しました。制作にあたっては、１ページにつき１店舗紹介形式で、商品の写真を大きく掲載して各店舗こだわりの商品を全面に押し出すようなデザインとし、また、持ち歩きしやすいようサイズにもこだわりました。

今回の受賞をきっかけに“雪くま”の魅力を多くの方に知っていただき、このガイド冊子を手にお気に入りの“雪くま”を見つけに熊谷を訪れていただければ幸いです。

ふるさとパンフレット大賞（第１０回）審査委員賞

地域活性化センター賞

新潟県南魚沼市

COLOR of Minamiuonuma

作品概要

四季を通じて移り変わる雪国・南魚沼市の美しい風景を中心に、南魚沼市を紹介する一冊になっています。

南魚沼市の魅力を引き出すために、どういった構成にしたらよいか試行錯誤しました。四季折々に彩られる魅力を伝えたく、タイトルを「COLOR of Minamiuonuma」にしました。

WEBパンフレットはこちら。
https://www.city.hanamaki.iwate.jp/shisei/chiiki/1014013.html

川住　昌光 審査委員

審査コメント

何といっても「色」に圧倒される。その色のもつ力で南魚沼の魅力をこれでもかとばかりに表現しようとしているコンセプトはあっぱれ。あまりにも色のフィルタリングをかけすぎじゃないかという声もあろうが、出来栄えがそんな声を圧倒する。魅せたもの勝ち。マスにこぼれるお酒、黄金色一色の田園などなど、まさに印象派の傑作です。

受賞団体コメント

この度は大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

雪国である南魚沼市は、冬には多くの人がスキーやスノーボードを楽しむために訪れます。しかし、雪の季節はもちろん雪のない季節にも、南魚沼市には四季を通じて移り変わる美しい景色や特産品などがたくさんあります。その魅力を多くの人に知っていただくよう、写真で伝えるパンフレットを制作しました。タイトルは、冬に一面真っ白になるまちが四季折々に彩られる魅力をお伝えしたいという思いから、『COLOR of Minamiuonuma』としました。

南魚沼市の魅力を引き出すためにはどういった構成にしたらよいか試行錯誤し、「春夏秋冬」の順ではなく冬から始まる構成となっています。

英語版も完成しており、デジタルブックでも公開しています。国内外問わず多くの方に見ていただき、南魚沼市を知り、訪れるきっかけになれば幸いです。

ふるさと動画大賞（第４回）　審査結果

開催趣旨

デジタル・IT分野の発展とともに、年々動画コンテンツは多様性に富んだものとなり、人々の日常に深く溶け込んでいる。自治体においても、ふるさとの魅力を発信するプロモーションとしてデジタルマーケティングの推進は欠かせないものとなっている。
この流れを受け、地域活性化センターでは、動画コンテンツによる地域情報発信を支援するために、「地域プロモーションアワード」の一環として年に一度「ふるさと動画大賞」を開催し、全国各地の創意工夫に満ちた動画コンテンツを募集、表彰する。

審査委員

審査委員長	箭内　道彦	氏（クリエイティブディレクター）
審査委員	秋吉　久美子	氏（女優）
	木川　剛志	氏（和歌山大学観光学部 教授）
	松原　亨	氏（株式会社マガジンハウス コロカル編集部編集長）
	谷中　修吾	氏（ BBT大学 教授/一般社団法人INSPIRE 代表理事）
	川住　昌光	（一般財団法人地域活性化センター 常務理事）

応募作品数　１３６点

受賞作品数　８点

賞（各１点）	受賞自治体（上段）・作品名（下段）
大賞	鹿児島県枕崎市 枕（MAKURA）JAZZ～総集篇～
優秀賞	神奈川県小田原市 おだわらでみつけたもの
箭内道彦賞	広島県三原市 三原JKの浪漫【高校生と作る 三原PR動画制作プロジェクト】
秋吉久美子賞	熊本県熊本市 熊本市政令指定都市移行10周年記念スペシャルムービー フルバージョン
木川剛志賞	高知県佐川町 究極のブルー
松原亨賞	新潟県南魚沼市 南魚沼産コシヒカリ KNOW THE FUTURE × MUSIC（2022）
谷中修吾賞	群馬県 The Seasons of Japan in Gunma Prefecture
地域活性化センター賞	高知県四万十町 ヲタ芸で地域おこし？四万十町観光PR動画

ふるさと動画大賞（第４回）　入賞作品

大賞　鹿児島県枕崎市

枕（MAKURA）JAZZ～総集篇～

優秀賞　神奈川県小田原市

おだわらでみつけたもの

箭内道彦賞　広島県三原市

三原JKの浪漫【高校生と作る 三原PR動画制作プロジェクト】

秋吉久美子賞　熊本県熊本市

熊本市政令指定都市移行10周年記念
スペシャルムービー フルバージョン

木川剛志賞　高知県佐川町

究極のブルー

松原亨賞　新潟県南魚沼市

南魚沼産コシヒカリ KNOW THE FUTURE × MUSIC（2022）

谷中修吾賞　群馬県

The Seasons of Japan in Gunma Prefecture

地域活性化センター賞　高知県四万十町

ヲタ芸で地域おこし？四万十町観光PR動画

※上記掲載の画像は、サムネイルと異なる場合がございます。

大賞

鹿児島県枕崎市

枕（MAKURA）JAZZ～総集篇～

https://www.youtube.com/watch?v=SS6CO3HIUYw

作品概要

～鰹節を削ると聴こえてくる音がある。お茶を淹れると聴こえてくる音がある。それは、枕崎ブランドがもたらす丁寧な暮らしを奏でる音色の数々～

「丁寧な暮らしには、心地よい音がある。」をキャッチフレーズに、生産量日本一を誇る鰹節をはじめ、緑茶や電照菊、焼酎、刃物など枕崎市の生産者による“丁寧”な仕事でつくられる“本物”の特産品の魅力が臨場感・没入感をもって伝わるように、聴覚に心地よい刺激を与える「ASMR効果」に着目した「音」にこだわった動画になっています。

審査コメント　（講評から抜粋）

・映像の美しさに「丁寧な暮らし」というメッセージが加わり、魅力とその意味を明確に伝える素晴らしい映像。
・近年ますます「丁寧な暮らし」に惹かれる生活者が増えていると感じるが、そういう気持ちを刺激し、枕崎でならそんな暮らしができそうな気分にさせてくれる。優秀賞とともにこれからの地域の魅力の模索と発信において道標となる秀逸な映像。
・「音」がこんなにも多くのメッセージを伝えることができるということを証明している。
バックに流れるジャズの軽快なリズムにものって、鰹節が、茶葉が、芋焼酎が、さもすぐそこに存在するかのような圧倒的なリアリティ感で、その魅力を訴えかけてくる秀作。

受賞団体コメント（鹿児島県枕崎市水産商工課）

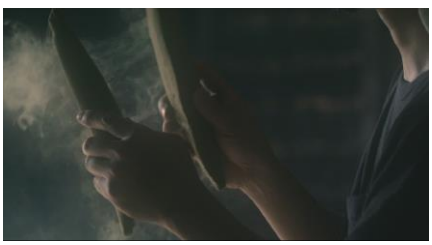
このたびは、「ふるさと動画大賞（第４回）」の栄えある「大賞」をいただき、誠にありがとうございます。枕崎のすばらしい特産品があってこその受賞だと思っています。動画の制作に協力していただいた生産者や関係者の皆さまと喜びを分かち合いたいです。

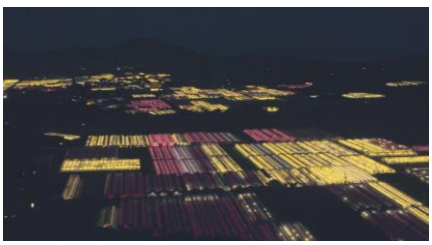
撮影では、生産者の仕事への情熱や信念を強く感じ、この空気感を映像から感じ取ってもらえるような動画を目指しました。

「枕（MAKURA）JAZZ」は受賞した総集篇のほかにも水産篇、農産篇、匠の技篇の計４篇制作していますので、ぜひすべて視聴していただきたいです。

動画の注目ポイント

夜間、煌々と輝く電照菊ビニールハウスをドローンで撮影した映像は、生産者による数十年ぶりの一斉点灯により実現しました。撮影時には生産者を含め関係者全員「こんな凄い光景だったとは・・・」と驚嘆しました。





優秀賞

神奈川県小田原市

おだわらでみつけたもの

作品概要

東京都内で生活する3人家族が、息子の「別の街に住んでみたい」という一言から、小田原市でお試し移住をすることになります。心がバラバラだった家族が、小田原暮らしの体験を通じて再生していく様子を描く、全７話のショートムービーの第１話です。

物語を通して、小田原の空や海、まちの空気感をそのまま感じてもらえるような映像を目指し制作しました。

https://www.youtube.com/watch?v=UAx4ca0KSBg

審査コメント　（講評から抜粋）

・地方移住によって得られる何か、それは言葉での説明は難しいのですが、を映像ならではの物語で教えてくれました。
・視聴者に対して、地域の何を、どう感じて欲しいのか、きちんと絞り込んでテーマ設定している。
・移住先としての魅力を、若い家族の日常風景にさりげなく溶け込ませて表現した作品です。肩肘張らずに自然と移住に踏み出していけそうな、そんな思いにさせてくれます。

受賞団体コメント（神奈川県小田原市企画部企画政策課(移住定住係)）

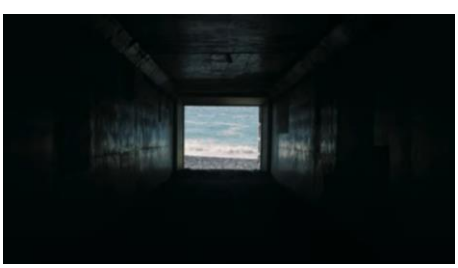
この作品は、多くの先輩移住者が語っていた「うまく言葉にはできないけどまちの雰囲気や空気感が良い」という小田原暮らしの魅力を、わかりやすい形で多くの人に伝えたいという想いからはじまり、コロナ禍による制作延期などを乗り越え、様々な関係者の協力のもと完成したものです。

「ふるさと動画大賞（第４回）」において、「優秀賞」という大変栄誉ある賞をいただいたことは「映像」として形になった我々の想いが評価されたように感じ、大変うれしく思います。

第１話を観て家族の行く末が気になった方は、ぜひ続きもご鑑賞ください。主人公たちと一緒に小田原を体感することが、小田原暮らしに関心を持つきっかけになれば幸いです。

動画の注目ポイント

多くの移住者を魅了した「海のトンネル」（0:00～）からはじまる、４Kで撮影された小田原の海の風景です。「映像で観ることで、あらためてその価値に気づいた」という感想を多くいただきました。



箭内道彦賞

広島県三原市

三原JKの浪漫【高校生と作る 三原PR動画制作プロジェクト】

https://youtu.be/CGJIgoxd7gU

作品概要

三原市は瀬戸内のほぼ中心部に位置する、ほどよく田舎でほどよく街の歴史と自然が豊かな住みやすいまちです。このまちに住む高校生がシティプロモーションの取り組みとして、「ありがちなまちのPR動画では誰にも響かない」と高校生自身が企画やシナリオづくり、撮影場所の交渉も行い、奇抜な演出よりも高校生としてのリアルを追求しました。

東京に比べて物足りなさばかりを感じる、まだ友達もいない転校生の視点を中心に、まちに対する意識の変化を表現し、BGMには三原市出身のアーティスト組地ハルさん提供の楽曲を使った動画です。

箭内道彦審査委員長

審査コメント

地域の魅力は、唯一無二じゃなくていい。世界でそこにしかないものでなくてもいい。他の地域にも同じ魅力があってかまわない。たとえばなんでもない景色に、思いを重ねる夕暮れ。人の温かな笑顔とのふれあい。それも地域の名産品。この企画の秀逸なポイントは、高校生の目線を通して発見と発信をするというアイデア。等身大のフレームをプロジェクトとして構築したこと。それを高校生たちが願いを込めながら形にしたこと。「みんなで創るまち」に、未来を感じました。

【総評】今年は例年に増してハイレベルな作品が数多く集まりました。昨年まで以上に多様な「アイデア」「企画」に出合うことができました。地域プロモーション動画の確実な進化が次のフェーズへと加速しています。群雄割拠。互いが競い合い、刺激と敬意と驚きを交換する場に、このアワードが益々発展していくことを願って止みません。これからの地域活性化を大きく前進させる力がクリエイティブにはあります。人が輝き、それぞれの地に誇りを抱く、地域の魅力はやはりそこに息付き続けるのだと、改めて感じた審査でした。

受賞団体コメント（広島県三原市広報戦略課）

このたびは、「箭内道彦賞」という輝かしい賞をいただき大変光栄です。

三原市では、市民それぞれが当事者というコンセプトのシティプロモーションに取り組む中で、地域の魅力をテーマとする動画制作を地元高校や企業がサポートしながら、高校生主導で取り組みました。この動画は「都会に比べ、遊べる場所も刺激もない」と感じている高校生が、改めてまちの魅力に向き合うことで、ふるさとへの思いが変わっていく姿を伝えること。また、「生まれるまちは選べないが、このまちを自分たちで素敵な場所に変えることはできる」という高校生の気づきによって、大人たちもまちづくりの当事者であるという意識変容につなげていくために制作したものです。この受賞をきっかけに、多くの人に三原の魅力を感じてもらい、三原に興味を持っていただければ最高です。

動画の注目ポイント

クラスに馴染めず、都会に戻りたいと思う転校生をクラスメイトが校外へ連れ出す1分27秒から、まちや人の魅力に触れ、三原への印象が変わっていく、JKの意識の変化とまちの「エモさ」を感じてください。

秋吉久美子賞

熊本県熊本市

熊本市政令指定都市移行10周年記念スペシャルムービー フルバージョン

https://youtu.be/cb8xXZSmrYc

作品概要

政令指定都市移行10周年を記念し、市内外に広く熊本市の魅力を発信する目的で制作しました。政令指定都市移行によって生まれた５つの区の魅力を現代の熊本市にタイムスリップした加藤清正らの武将（熊本城おもてなし武将隊）たちが驚きをもって体感していきます。

また、この10年間を振り返るシーンに加え、2016年の熊本地震から力強く立ち上がり復旧復興を果たしてきた熊本市の軌跡を紹介しています。

秋吉久美子審査委員　審査コメント

時代劇と現代の熊本をうまくスイッチさせながら、熊本の魅力、生命力を表現しています。同時に熊本という地域都市に特化せず、日本人そのものの脈々とした力強さ、明るさも感じることが出来ました。

そして、歴史で悲喜こもごもある中で過去の武士たちが、今を「喜び」とともに感じるように熊本の未来においても喜びが蘇ることを示唆している作品だと思いました。非常に感動しました！

【総評】カメラ映像、照明の美しさが驚くばかりに溢れています。その上、編集内容も個性、リズム感もあって、非常に心地よい。

また、その地域に住む人々に対する「愛の眼差し」、そして「自然との共存」というテーマが今回の大きな特徴だと思います。日本の未来に対する地域の底力に心から期待したい。

受賞団体コメント（熊本県熊本市広報課）

この度は、「秋吉久美子賞」という大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

熊本市は 2022年4月に政令指定都市移行10周年という大きな節目を迎えました。

「平成28年熊本地震」という大災害に見舞われましたが、皆様からのご支援もあり、そこから力強く立ち上がってまいりました。私たちにとって厳しい経験ではありましたが、人と人との絆や地域のつながりの重要性を改めて認識することができました。

そんな熊本市の魅力をこの動画を通じて、多くの方に感じていただき、熊本市に興味を持っていただければ幸いです。

動画の注目ポイント

1:21～2:32／熊本市に根付く古き良き魅力と、この10年で誕生した新たな魅力を、タイムスリップした武将たちが驚きとともに体感。武将と現代とのビジュアル的なギャップと熊本市の美しい風景をご堪能ください！

木川剛志賞

高知県佐川町

究極のブルー

https://youtu.be/oV5KB_RNeX0

作品概要

仁淀川と流域6市町村の観光PR動画です。
奇跡の清流と言われる仁淀ブルーを、「ブルーな気持ちになれる」と勘違いから訪れた傷心の女性を癒し、仁淀川流域に広がる大自然、透明度の高い青く輝く水のみならず人々との交流から、この地域の魅力に気づいていく内容となっています。

女優の畦田ひとみさんの等身大の演技、彼女の表情の変化が、より一層仁淀川の魅力を伝えている作品となっています。

木川剛志審査委員

審査コメント

「究極のブルー」は地域の魅力を伝える点においてもとても効果的な映像ですが、観光視点においても特に優れた映像でした。観光行動は単なる消費行動ではなく、人生のステージにおける”エモーション（感情）”とともに引き起こされるものです。感情が人に動機を与えます。しかし、多くの観光誘致では“スペック”で魅力を語り、人々の感情にうったえかけることはできていません。「究極のブルー」では一人の女性が感情に動機付けられ旅にでます。さらに感情と風景が何度も交差し、そのたびに視聴者は映像にどんどんと引き込まれ、仁淀川の美しさに実感を持ちます。心にうったえかける素晴らしい映像でした。

【総評】パンデミック後の世界のあり方が模索される中、地域の魅力とは何かは重要な観点となっています。今年の応募作品にはそのヒントを与えてくれる映像がたくさんありました。

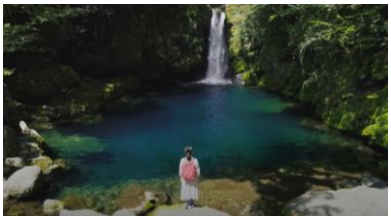
受賞団体コメント（高知県佐川町まちづくり推進課）

このたびは「仁淀川エリアPR動画“究極のブルー編”」での「木川剛志賞」をいただきまして、誠にありがとうございます。大変嬉しく、仁淀川流域の市町村皆と共に喜びを分かち合いたいと思います。
この動画は、仁淀川流域の6市町村+高知市と共に制作を致しました。仁淀川の魅力を知る高知出身の中村友也監督を迎え、キャストの畦田ひとみさんに仁淀川をありのままに「味わって」いただく作品になっています。ドラマ仕立てではありますが、彼女自身が仁淀川に感じた表情、演技がありのまま画面に映し出されることで、仁淀川の魅力を多くの方にお伝えしています。

今後、地域の方々と共に「奇跡の清流　仁(に)淀川(よどがわ)」＝(イコール)「仁淀(によど)ブルー」というブランドを確立することで、仁淀ブルーを起点に、自然・歴史・文化・産業・食・人といった、ここにしかない価値に訪れる観光客等の方々に満足していただき、仁淀川流域に何回も訪れてもらえる魅力的かつ持続可能な観光地域づくりを目指していきます。

動画の注目ポイント

奇跡の清流といわれる仁淀ブルースポット、そして主人公の表情にご注目いただき、仁淀川とその流域の魅力を感じてください。「だまされた」で始まる主人公のボヤキのモノローグとは裏腹に、仁淀ブルーの魅力と人々の温かさにどんどん癒されていく主人公の心境の変化をお楽しみください。



松原亨賞

新潟県南魚沼市

南魚沼産コシヒカリ KNOW THE FUTURE × MUSIC（2022）

https://youtu.be/vHSXXKOONBw

作品概要

市を代表する特産品である南魚沼産コシヒカリの販売促進を始め、農業の素晴らしさ、従事する人々のカッコよさをPRすることにより、「職業選択肢としての農業の推進」「農業を契機とした南魚沼市への移住定住促進」「観光業を始めとした市内各種産業の活性化」など、動画効果が農業全体、南魚沼市全体へ波及することを目指し、製作した動画です。

南魚沼市在住の若手農業者が自ら企画・演出・出演。楽曲制作・撮影・編集なども市内を拠点とする若手クリエイターが行っています。
ぜひ、ご覧ください。

松原亨審査委員
審査コメント

その土地が一番魅力的に見えるのは、そこに暮らす人を羨ましいと思えるとき。「南魚沼産コシヒカリKNOW THE FUTURE×MUSIC」からは、生産者のみなさんがやり甲斐とプライドをもって働き、充実した暮らしを営む「幸福感」があふれ出ていて、眩しい。

その土地に生きる人のハッピーな姿こそ、一番のプロモーションツールだと改めて思う。

受賞団体コメント（新潟県南魚沼市農林課）

この度は、「松原亨賞」という大変光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

南魚沼市は、新潟県南部、魚沼盆地の中心に位置している魚沼コシヒカリ発祥の地です。恵まれた自然環境と代々受け継がれてきた米作りの技、たゆまぬ努力により生産される最高品質のお米「南魚沼産コシヒカリ」。この動画を通じて、少しでも多くの方に南魚沼産コシヒカリとその産地である南魚沼市を知っていただけたら幸いです。

また、動画で活躍する農業者の姿を通じて、農業という魅力ある職業に興味を持っていただいた方が南魚沼の地を訪れることを願っています。

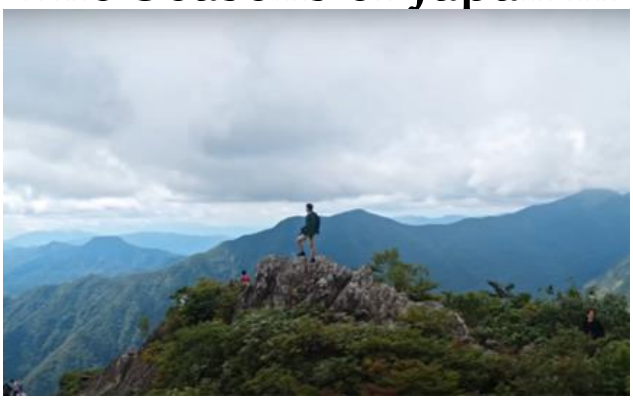
動画の注目ポイント

動画内の楽曲は、本動画のために書き下ろした完全オリジナルです！(0：00～0：25)曲の導入、(0：47～0：57)農業の魅力、(1：15～1：20)行事さなぶりを楽しむ農業者の姿、(1：49～2：25)曲のメインパートは必見です。

谷中修吾賞

群馬県

The Seasons of Japan in Gunma Prefecture



作品概要

　この動画は、群馬県への訪日外国人誘客を目的として制作したものです。
　群馬県の「温泉」や「自然」など、特徴的な観光資源を季節ごとに撮影し、目を引きつける映像によって群馬県の観光イメージを印象づける作品としました。
　群馬県の持つ“四季の顔”をご覧いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=T_V972Gu5Zk

谷中修吾審査委員 審査コメント

　ターゲットを強く意識して作り込まれた秀逸な作品です。ノンバーバルで価値を訴求するための創意工夫が強く感じられ、対象とする訪日外国人観光客に自己投影感を持たせています。交流人口の創生に大きく寄与すること間違いなし。圧倒的な映像美と心地よい場面展開によって、群馬のエキゾチック感を演出していることが印象的ですね。どのメディアでどのように動画を展開していくかというブースト戦略が重要になると思いますが、群馬の普遍的なエッセンスが巧みに紡がれているため、ロングライフで活用可能な作品だと思います。ループ再生して視聴しているうちに群馬の温泉巡りをしたい衝動に駆られている今日この頃、受賞おめでとうございます。
【総評】動画を単体で評価しようとすると、美しさ、かっこよさ、オモシロさなどのクリエイティブ面に目がいきがちです。しかしながら、地域プロモーションとしての動画は、その動画を「誰に見てもらって、どのような結果を得たいのか」という意図が極めて重要になります。この前提条件がよく練られた作品は、動画のターゲットや提供価値、それによって得たい効果が明確に伝わってきました。今回のアワードで応募された数々の作品を視聴させていただくと、日本全国で地域プロモーション動画の制作技術が高まっている傾向を感じます。開かれた動画制作が普及した今、多くの地域が多くの動画を制作しているため、明快な価値を持つ動画でなければ埋もれてしまうこともまた事実です。地域プロモーションの前提条件をクリスタルクリアに意識しつつ、突き抜けた動画で地域を創生していきましょう！

受賞団体コメント（群馬県観光魅力創出課）

　このたびは、「谷中修吾賞」という大変栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。
　群馬県には、身も心も癒やされる温泉や、息をのむほどの大自然、四季を通じて楽しめるアクティビティなど、魅力的な観光資源が数多くあります。コロナ前のように多くの方に群馬県に来ていただきたいとの想いも込めて動画を制作しました。この動画をきっかけに、群馬県に興味を持ち、一人でも多くの方に来県いただける事を心から願っております。

動画の注目ポイント

　軽妙な音楽とともに、ドローン撮影による群馬県の自然の雄大さや、湯気立ち上る全国屈指の温泉など、群馬県の魅力を短い動画の中にぎゅっと詰め込みました。

地域活性化センター賞

高知県四万十町

ヲタ芸で地域おこし？四万十町観光PR動画

https://www.youtube.com/watch?v=rL9yeIRd0b8

作品概要

新型コロナウイルス拡大の影響でイベントが軒並み中止になる中、元気のない四万十町を少しでも元気にしたい！という思いで作った作品です。この町を活気づけるため、町内外で話題の地元高校生バンドの楽曲を使うことにより、親しみやすい動画となっています。

また、若者が四万十川や岩本寺など四万十町の名所をめぐり、ダンスと音楽で盛り上げる映像は、今までにない四万十町の新しい魅力を引き出しています。

川住昌光審査委員　審査コメント

四万十町自慢の美しい風景や観光名所を、全編にわたって若者のキレキレダンスと高校生バンドとは思えないリズム感、歌唱力溢れるロックでカバーした力作です。見る側が思わずダンスと曲に没入してしまい、肝心の風景、名所が記憶から飛んでしまいそうになりますが、このミスマッチと没入感こそがこの作品の最大の魅力でしょう。今後のバージョンアップが今から楽しみです。

【総評】今年もコロナ禍の中で、多くの素晴らしい作品のご応募をいただき本当にありがとうございました。映像の美しさだけではない、作り手が伝えたいメッセージやストーリーを感じることができる作品の数々でした。

受賞団体コメント（高知県四万十町企画課）

この度は、「地域活性化センター賞」をいただき、ありがとうございます。

この動画は、四万十町地域おこし協力隊職員を中心に「四万十町を元気にしたい」という一心で制作した動画です。一見、ミスマッチな「サイリウムダンス」と「田舎」が見事なコラボレーションを見せてくれています。

この、どこにもない観光PR動画が完成し、こうして認めていただいたことを本当にうれしく思います。「四万十町、なかなかおもしろいろ？！」と胸を張って言いたいです。

動画の注目ポイント

主人公が四万十町の魅力や文化に触れて変わっていく心境を表現したストーリーと、四万十町の名所をバックに踊る「サイリウムダンス」にご注目ください。

また、全国で数々の賞を受賞した四万十発ガールズロックバンド「アカネサス」の音楽も必聴です。